

吉澤義則 編

未刊國文古註釋大系

第四卷

清
文
堂

未刊国文古註釈大系（全十八卷）第四卷

昭和十三年六月二十日

初版発行

昭和四十三年十月五日

複刻版発行

編纂者

吉澤 義則

発行者

前田 勝雄

製版者

京都市下京区柳馬場四条通下
光綾写真製版株式会社

能登 英夫

印刷者

京都市南区東九条南石田町一
朝陽堂印刷株式会社

高橋 清二

製本者

大阪市天王寺区勝山通一ノ二〇
倉橋製本株式会社

倉橋 重男

発行所

大坂市南区二ツ井戸町十五
清文堂出版株式会社

振替 大坂六二三八
電話 四六二六五(代)
郵便番号 五四二

未刊国文古註釈大系 第四卷 目次

古今集註

古今秘註抄

一

二四七

古
今
集
註

五
冊

毘
沙
門
堂
本

古今集註開題

古今集註は京都市東山區山科毘沙門堂門跡に襲藏せられてゐる。

卷子本六卷で、第一卷は「古今假名序註」であり、第二卷は「古今注自一至三」であり、第三卷は「古今注自四至九」であり、第四卷は「古今注自十至十三」であり終に「校了」とある。又第五卷は「古今注自十四至十七」であり、第六卷は「古今注自十八至廿」であり終に「一校了」とある。

本書の本文は清輔本が底本となつてゐて、第六卷の末に仁平四年の清輔の識語を収めてある。それに定家本を以て校合されてゐる。この定家の識語も建保二年のと嘉禎三年のものが記されてゐる。

本書の註は六條家流の説を主とし、二條家流の説を參

考してある。顯昭・俊賴・家隆・經信・國信・重之・釋阿・順・知家・兼房・範兼・爲兼・定家・爲氏等の所説を引用してゐるが、爲氏の説が最も多い。

本書の著者に就いては未詳であるが、第六卷の終に

相傳系圖

○太上天皇秀能
可有口傳如願——行念——上觀——慶盛

と見えてゐる。太上天皇とは後鳥羽上皇の御事であり、如願は上皇の御親任厚かつた藤原秀能のことであるが、それ以上は判然しない。何れ鎌倉末期の制作と思はれる。毘沙門堂本は原著者の筆蹟ではなからうが、少くとも餘り遠からざる時代に寫されたものであらう。

古今假名序註

古今序

紀淑望

夫倭歌者託其根於心地發其華於詞林者也人之在レ世不能無爲思慮易遷哀樂相變感生於志詠形於言是以逸者其詞樂怨者其吟悲可以述懷可以發憤動天地之感鬼神化人倫利夫婦莫不宜於和調有六義二曰風二曰賦三曰比四曰興五曰雅六曰頌若夫春鶯之囀華中秋蟬之吟樹上雖無曲折各發調諸物皆有之自然之理也然而神世七代時質人浮情欲無分倭調未作逮于素盞鳴尊到出雲國上始有三十一字之詠今返調之作也其後雖天神之孫海童之女莫不下以和調通情者也爰及二人代此風大興長調短調換頭混本之類雜體非一源流漸繁譬猶拂雲之樹生自寸苗之煙浮天之波起於一滴之露上至于如難波津之什獻天皇富緒川之篇報中太子或事關神異或興入幽玄但見上古之調多存古質之跡未爲耳目之翫徒爲教誡之端古之天子每良辰美景詔侍臣預宴筵者上獻倭調君臣之情由斯可見賢愚之性

於是相分所下以隨民之欲擇士之才也自大津皇子之初作詩賦詞人才子慕風繼塵移彼漢家之字化我日域之俗民業一改和調漸衰然猶有先師柿本大夫者高振神妙之思獨步古今之間有山邊赤人者并倭歌仙也其餘業倭調者綿々不絕及彼時變澆醜人貴奢淫上浮詞雲興艷流泉涌其實皆以落其華獨以榮至有下好色之家以此爲華鳥之使乞食之客以此爲活計之媒故半爲婦人之右難進大夫之前近代存古風者纔二三人而已然長短不同論以可辨華山僧正尤得調躰其躰華而少實如圖畫好女動人情在原中將之調其情有餘其詞不足如萎花雖少彩色而有董香上文屋康秀其躰近俗如賈人之着鮮衣宇治山僧喜撰詞甚華麗而首尾停滯如望秋月遇曉雲上小野小町之調古衣通姬之流也然麗而無氣力一如病婦之着花粉大友黑主之調古猿丸大夫之次也頗逸興而躰甚鄙如田夫之息花前此外姓氏流聞者不勝數其大底皆以麗爲本不知調之趣二者也俗人事榮利不用倭調悲哉雖下貴兼將相富饒金錢上而骨未腐於立中一名先滅於世上適爲後輩被知者唯倭調之人而已何

者語近ニ人耳ニ義通ニ神明也昔平城天子詔侍臣令撰ニ萬葉集一自余以來時歷ニ十代數過ニ百年一其間倭調辨不レ被レ採雖風流如ニ野相公輕情如ニ在納言上而皆依ニ他才一聞不下以ニ斯道一顯レ伏惟

道一顯レ伏惟

下御宇九載仁流ニ秋津洲之外ニ惠茂ニ筑波山之陰ニ淵變爲レ

瀨之聲寂々閉レ口砂長爲レ嚴之頰洋々滿ニ耳思ニ繼ニ既絶之風一欲レ興ニ久廢之道ニ愛詔ニ大内記紀友則御書所預紀貫之前甲斐小目凡河内躬恒右衛門府一一生壬生忠孝等上各獻家集并古來舊調ニ於是重有レ詔部ニ類所レ奉之調勒爲ニ二十卷一名曰古今集一臣等詞少ニ春花之艶ニ名竊秋夜之長ニ況乎進恐ニ時俗之嘲ニ退慙ニ才藝之拙ニ適遇ニ和調之中興ニ以樂ニ吾道再昌ニ嗟乎人廢既沒倭調不レ在ニ斯ニ載于時延喜五年歲次ニ乙丑四月十八日臣貫之等謹序

日本記云

陽神也 陰神也 伊弉諾 伊弉册

此御子ニ一女三男ヲ生給フ

一女 天照太神 日天子ハ是也

一男 月弓トモ書リ又ハ月讀アマリニ容色衰シテ非ニ人間之類ニ仍ニ親ノ御計トシテ天上ニホセ奉ル 三年マテ足不立故ニイハクス船ニ乘テ海ニ放之 今ノ西宮是也 二男 蛭子 草木ヲカラシ惡之聞出雲國ハ被流後ユルシテ嫡子ニ是ヲ立給フ月弓ハ兄天蛭子ハ放海天照太神ハ女禰也 三男 素盞鳴尊 故ニ以三男立御子

伊弉諾伊弉册ハ天神七代目也第一ハ陽神ハカリ御座アリ第二第三第四第五第六此五代ハ陰陽ノ二神御座アレトモ嫁事無之爰第七ノ伊弉諾伊弉册ノ御時始テ石クナキノ尾ヲフルヲ御覽シテ嫁給ヘリ仍コノ鳥ヲトツキナシヘトリト云也コノ嫁給フ時兩神詠云 伊弉諾 意哉遇可美少女焉 伊弉册 意哉遇可美少女焉

古今和調集序

ヤマトウタハ人ノ心ヲタネトシテヨロツノコトノ葉トソナレリケル

註曰ヤマトウタニ兩家ノ讀アリ一係家ニハヤマトウタトヨムナリ 六條家ニハヤマトウタトヨムナリ又ヤマト歌ト云ニ付テ三義ノ不同アリ 一ニハヤマトハ大和歌ト云リ此ハ天竺ノ言ヲ唐土ニヤハラケ唐土ノ言ヲ日本

ニヤハラクルヲ三國ヤハラケタル故ニヤマト歌ト云也

二ニハ一切鬼神武キモノ、フモ歌ニ心ヲ和ル故ニオホキ

ニヤハラクルト云也 三ニハ六義ニ付テ云ナリ天竺ニ禮

文トテ六義ヲ宗トシテ弄フ事アリ其ヲ俱摩羅什三藏習テ

唐土ノ詩ノ六義トス其ヲ日本ノ希世丸ノ宰相天智天皇ノ

御時遣唐使ニテ習テ日本ノ歌ノ六義トスル也如此三國ヤ

ハラクル故ニ大和歌ト云也 人ノ心ヲタネトスト云者ミ

ル物キク物ニ付テ歌ヲ讀事皆人ノ心ヲタネトシテ興レリ

仍シカ云也 ヨロツノ事ノ葉ニナルトハ萬物ニワタリテ

歌ヲ讀ヲ云也

世中ニアル人コトワサシケキモノナレハ心ニオモフコトヲ

ミルモノキクモノニツケテイヒイタセルナリ花ニナクウク

ヒス水ニスムカハツノコエヲキケハイキトシイケル物イツ

レカウタヲヨマサリケル

或云舉萬物自然德故詩云心動中言形外

註曰花ニナク鶯水ニスムカハツノ歌ヲ讀ト云事六條云ウ

クヒスカハツノ聲ヲキ、テイキトシイケル人誰カ歌ヲヨ

マサルト云也當流ニハ不然花ニナク鶯水ニ住河津ト云事

ハ鶯ハ新春ノ窠初ニナク事一切ノ鳥ノ初ナリ河津モ節カ

ハレハヤカテ鳴コト諸蟲ノ先タリ仍以レ一納^{ナゲル}萬義ヲ以テ

此二ノ物ヲ舉テサトス也又鶯河ツノ歌ヨミタル事證アリ

日本記云大和國ニアル僧フカク思フ弟子アリ後弟子死テ

後三年ヲヘテ彼師ノ家ノ前ニ鶯來テナク聲ヲキケハ初陽

毎朝來不相還本誓トナキケリ恠テ聲ヲ摸テカキテ見レハ

ハツ春ノアシタコトニハキタレトモアヒカヘラサルモ

トノチカヒテ

ト云歌也恠思テネタル夜ノ夢ニ告テ云我ハ汝カ弟子ナリ生

テカヘテ鳥ト成テ此ニ來レリト云ケリ是ヲ日本記ニハウク

ヒス童ノ歌ト云也又カツハ歌ヲヨムト云事日本記云紀良定

住吉ノ浦ニ行テワスレ草ヲ尋ケルニ美女ニアヘリ來春ヲ契

テ尋來リケルニ女ハナシツクノトタル所ニカヘルノ濱ヲ

アユミトホルヲ見ニ其跡歌ナリ

スミヨシノハマノミルメモワスレネハカリニモ人ニ又ト

ハレヌル

トアリ此ヲ日本記ニハカハツ女ノ歌ト云リ此ニテ舉ナリ

問眞名序ニカハツノ所ヲ蟬ト云事如何 答カハツハヤマ

ト言也文舛ノキ、ヨカラム爲ニ蟬ト云也此モ樂天ノ詩

ニ万山秋深秋蟬成レ詩ト云リ詩歌同事ナル故ニシカ云也

イ、キトシイケルモノ歌ヲヨムト云者兩義アリ一ニハ文

集云述レ意謂レ詩發レ詞曰レ歌サレハ必シモ三十一字ナラネ

トモ其心ヲ述ハ皆歌ナリ又歌ノ五七七々ノ句ハ五行

也万物ノ歌ハ皆五行ノヒ、キ也サレハ一切ノ有情非情皆

五行ヲ躰トセリ仍其ヒ、キハ皆歌ト云也正義云作樂天詩

論レ功頌レ德歌止レ僻防レ邪ト云々

チカラヲモイレスシテアメツチヲウコカシメニミエヌオニ

神ヲモアハレトオモハセオトコヲムナノナカラモヤハラケ

タケキモノ、フノ心ヲモナクサムルハウタナリ

註曰チカラヲモイレスシテアメツチヲ勤スト云事二義アリ

一者万物ヲ歌ノ心ニヤハラケヨ又ハ天下ノ物ミナ歌ニヨマ

レスト云事ナシ仍シカ云也二者歌ノ五句ハ則五行也一首

ヲヨメハ天地ノ五行ヲ勤スト云也目ニミエヌ鬼神ヲモア

ハレト思ハスト云者伊勢物語云天安元年正月廿八日文德

天皇住吉ニ行幸アリ業平御共ニテ一首ノ歌ヲヨメリ

我ミテモ久クナリヌ住吉ノ岸ノヒメ松イク世ヘヌラム

トヨメリケルニ明神ノ金殿ヲ開テ御返歌アリ

ムツマシキ君ハシラナミ、ツカキノヒサシキ世ヨリイ
ハヒソメテキ

此則神ノ歌ニメテ給フ證也其外如此咸多シ鬼ノ歌ニメツ

ルト云事日本記云天智天皇ノ御時藤原千方將軍ト云者

伊賀伊勢ヲ打取テ王命ニ不隨タマノ、打手ヲ隨被下猛威

ニマケテ敗北ス爰紀友尾ヲ大將トシテ重テ被下也彼千方

四ノ鬼ヲツカヘリ金鬼風鬼水鬼陰形鬼ナリ陰形鬼ハ勢ヲ

皆カクシテ悉一鬼トミセケリ金鬼ハ堅固ノ身ニテ矢石

ニモヤフレス風鬼ハ大風ヲフカセテ敵ノ城ヲ吹ヤフル水

鬼ハ洪水ヲナカシテ敵ヲ溺ラスサルアヒタ征伐サラニ人

力ノ及トコロニアラス友尾一首ノ歌ヲ讀テ鬼ノ中ヘタク

リケリ

草木モワカ大キミノ國ナレハイツレカオニノスミカ

ナルヘキ

四鬼コノ歌ヲ見テサテハ我等惡逆ノ友ニ隨ケリトテ千方

ヲステ、サリヌ是則鬼ノ歌ニメツル證也タケキモノ、

フ男女ノ道ヲ和ル事其例多レハ舉ニ不及

コノウタアメツチヒラクハシマリケル時ヨリイテキニケリ

アマノウキハシノシタニテメ神オ神トナリ給ヘルコト
タイヘルウタナリ

註曰問アメツチノ開初ルト云事如何 答一天四海ノ開シ
時ノ事也 問其時 歌出來ケルニヤ 答コレハ一天四海
ノ開ハシマリシ義ニハアラス歌ハ日本一州ニカキル物也
然ハ日本一州ノ開ハシマリシヲアメツチノ開始トハ云也
問日本ニヲヒテ天地ノ開ト云事如何答天ニ七神アリ所謂
國常立尊クニトコタナリミコト 國狹槌尊クニサツヅミコト 豐斟淳尊トヨクムスミコト 泥土瓊尊ウレシノノミコト 大戸之道尊オホトノミチノミコト 面足尊オモタルミコト 伊弉諾尊イサナノミコト 則是ナリ 問此神何ヨリ來
ソヤ 答此ニ付テ二義アリ日本記ニハ無象神トイヘリ古
語拾遺ニハ實ニ如此ノ神空中ニ有ト云リ此ハ有象神ナリ
無象神ト云者何義歟 答無象神トハ天ニ五行ノ性アリ此
ハ虚空遍滿周遍法界之躰也此ハ色躰モナキ五行ノ性ハカ
リアルナリ此ニ五ノタマシキアリ木ニナルヘキタマシキ
水ニナルヘキタマシキ土トナルヘキタマシキ火金又同
シ此五ノ魂ノ周遍ノ性ヲ天ノ五神トスル也此五ノ性自然
ニ和合シテ一ノ躰ヲアラハス也此ヲ面足尊ト云也是ヲ日
本記ニ空中有物形如三葦貝アサハカイト云也此ハ五行ノ性ヲ堅テ面

足トス此面足尊陰陽ニヲ分テ伊弉諾伊弉冊ノ二神ト成也
五行即陰陽ナル故也木火土ハ陽也金水ハ陰也サレハ五行
ヲカタメテ一神トシ一神ヨリニヲ分テイサナキイサナミ
ノ二神トスル也此時ウルハシク色躰五根等ヲ具足セリ此
二神空中ニ住テ此下ニ國ナカラムヤトテアマノニヒホコ
ヲオロシテ大海アヲウナリヲサクルニ國ナシヒキアクル鉢ノシツ
ク落テコホリ堅テ一ノ嶋トナレリ淡路嶋コレ也此嶋ヲ二
神見給テオリ給タレトモ物イフ事ヲシラス他州ヨリニハ
タ、キトイフ鳥來テ尾ヲ土ニタ、クヲ見テメ神ハアフノ
キオ神ハ上ニナリテトツキヲシ初ケリ此時始テアナウレ
シアナ心ヨト云コトハ出來レリ此ヲヤマト言ノ初トシテ
是ヲ歌ト云也然ハ其言ヲ發スルヲ云ト云義也サレハタ、
思事ヲ云アラハス皆歌ト云也 問此國ノ初リシ時ハ余ノ
國ハ有ケルカ如何 答日本ノ地神ノ時ハ唐ノ秦始皇帝ノ
代也日本ハ余州ヨリハルカニ後也サルアヒタ餘國ヨリ此
鳥ハ來ナリソレヲアマノウキハシノシタニテメ神オ神ト
ナルト云也アマノウキハシトハ天也天ハ雨露ヲ下テ世ヲ
渡スル由ヲ以テアマノウキハシト云ナリ

シカアレトモ世ニツタハル事ハヒサカタノアメニシテハシ
タテルヒメニハシマリ

シタテルヒメトハアメワカミコノメナリセウトノ神ノ
カタチヲカタニ、ウツリテカ、ヤクヲヨメルエヒスウ
タナルヘシコレヲ^ラハモシノカスモサタマラス歌ノヤウ
ニモアラヌ事トモナリ

註曰問ヒサカタノアメニシテハシタテルヒメニハシマル
ト云事如何將コレハ上ノ二神ノ事カ如何 答コレハ別ノ
事也コレハイサナキイサナミノ二神四神ヲウミ給フ四神
ト申ハ日神^{天照大神}月神^{月ヨミノ明神}蛭子^{西宮明神}素盞^{素盞鳥}出雲大

社御事也 天照大神ヲ國ノ主トシテオハシケルニ第四ノ
素盞鳥尊ワレ國ヲトラムトテ軍ヲ起テ一千ノ惡神ヲ大和
國宇多野ニ城ヲカマヘテオハシケレハ天照大神ヨシナシ
トテ八万ノ神達ヲ引具テカツラキノ天ノ岩戸ニ閉籠給フ
此時御共ニオハスル下照姫ト^{シタテルヒメ}天稚彦ト^{アマワカヒコ}夫婦ト成テオハシ
ケルカ此姫アマリニウツクシクテ光二ノ岳二ノ谷ニカ、
ヤケリ此ヲ彼姫ノヲト、味耜高彥根尊^{アミササタカヒコノミコト}アネヲ思カケテア
ハムトシケルコロ天稚彦ノ尊死テ^{セツ}姫衰室ヲツクリテ居給

ヘリケル所ヘ彼弟ノ高彥根ノミコト忍々ニ通給ケルヲ姫
今ハ此事ヲ人ニアラハサムト思テ一首ノ歌ヲヨミ給フ此
歌第一番也但上ノ歌ヲ具レハ二番也其歌曰

アモナルヤヲトタナハタニ ^{ノイ、ウイ} ヲナカセルタマノミス

マレタニフタツワタスヅチ ^{神也} スキタカヒコネノミコト

頭註 味耜神也

此歌ヲサシテ下照姫ニハシマレリト云也 セウトノ神ト
ハ姫ハ高彥根ノ尊ニハアネニテオハスル間シカ云也エヒ
ス歌ト云ハエヒスハ前後ヲカヘリミヌ物ナリソノコトク
ニ今ノ歌モ前後モシラスナカ、トヨメル歌也 ヒサカ
タトハ天ノ名也是三義アリ 一ニハ久方トカケリ此ハ
二神十方ヲ定メシ時天ハカキリナキ方ナレハトテ久方ト
云ナリ 二ニハ久形トイフ此ハ月ノ圓滿ノ形ハシメヲハ
リナキ故ニシカ云也 三ニハ久堅コレハ天ハ常住ニテ破
壞ナキ義也 或人ノ説云后ノ膝ノハカマヨリ出タリシヲ
月ニ似リシカハソレヨリシカ云ト云リ此義不可然

天稚彦^{アマノハヒコ}ト申^{イハ}ハ氣長足^{イキナガタラシ}珍司尊^{シニミコト}也下照姬^{シタテヒメ}トハ安閑玉^{アノカニタマ}山理姬尊^{ヤマリヒメミコト}也

アラカネノツチニシテハスサノヲノミコトヨリソオコレリケルチハヤフル神世ニハウタノモシモサタマラススナホニシテ事ノ心ワキカタカリケラシ人ノ世トナリテスサノヲノミコトヨリソミソモシアマリヒトモシハヨミケル

スサノヲノミコトハアマテル御神^{ミコト}ノコノカミナリ女トスミタマハムトテイツモノクニ、宮ツクリシタマフ時ニソノ所ニヤイロノ雲^{ハセ}ノタツチミテヨミタマヘルナリヤクモタツイツモヤヘカキツマコメニヤヘカキツクルソノヤヘカキヲ

註曰アラカネノツチニシテハスサノヲノミコトニ初ト云ハ上ノ歌ハ天下ハシマリテ後出來リタレトモソレハナヲ國土サタマラサリシ時ナレハヒサカタノアメト云也久方ノアメトハ天照太神ヲサシテ申ナリアラカネノ土トハ日本ノ始ハ一向石金ニテ土ナシマツ草木生テクチテ土トナル物也スサノヲノ尊ニ始ト云者日本記云素盞尊天照太

神ヲ打ムトシケル時天照太神ハアマノ岩戸ニ閉籠給フスサノヲノ尊ハ大和國宇多野ニ城ヲ構テ一千ノ惡神ヲ宗トシテ小蠅^{サビ}ナス神達ヲ語テ一千ノ劍ヲホリタテアリケル程ニ天照太神ハヨシナシテ八万ノ神達ヲ引具テアマノ岩戸ニコモリ給ケレハ國土クラク成レリ此時嶋根^{シマネ}尊一^{ミコト}千ノ神達ヲ語テ天照太神ヲ請シ奉トテ大和國天香久山^{アマノカキヤ}ニ集テ庭火ヲタキ鏡ヲキテ天照太神ノ御方見トセムトス一番ニキタリシ鏡ハワロクシテ捨ヌ今ノ紀州ノ日前宮是也次ニヨクキタリシ今ノ内侍所是ナリ此鏡ヲ神ノ枝ニツケテ神達神歌ヲウタヒテ舞遊ケレハ天照太神ハルカニ岩戸ノ内ニテ聞召テ我ナケレトモ神達モイサムヤト云テ手力^{タチカラ}雄尊^{ヲミコト}ニ岩戸ヲ開セテ御カホヲサシ出サセ給ヘハソノ御光鏡ニウツレリ神達此ヲ見テアラ面白ト云ケルヨリ心ニウレシキ事ヲ面白ト云也此時天照太神岩戸ヲ出テ宇多野ニ行テ千ノ劍ヲ一足ヲ以テケヤフリテ惡神トモヲヒスツ此時スサノヲノミコト一人ニ成テ迷アリク程ニ人王神武天皇ノ始ニ至テ出雲國ニ行給ヌ海上ニ浮テナカル、嶋アリ尊ノ思ハク此嶋ハ天照太神モシリ給ヘキ所ナラント

テ御手ニテナキト、メテスミ給ヘリ仍コノ嶋ヲ手摩嶋ト云也此嶋ニテ見給ヘハ清地サトノオク簸河上ニ八色ノ雲アリ惟行テ見給ヘハ老翁老女二人ウツクシクワカキ女ヲ前ニテキテ哭アリスサノヲ云ク何事ヲ哭ソト問給ヘハ老翁答曰我ハ神也我ヲハ脚摩乳ト云ウハテ手摩乳ト云也此姫ハ稻田姫トテ我ムスメ也コノトコロニ八岐蛇トテ八ノ頭アル大蛇有テ七ノ谷七ノ尾ニワタリテ此アタリノ小神人ナムトヲ取クラヒテ今ハ我ムスメ稻田姫ヲトラムトスルヲ哭也尊云我ヲムコニトラハ此蛇ヲ打ムトノ給フ老翁則コトウケシケレハ尊八ノ酒船ニ酒ヲ湛テヲキテユツノツマクシヲハツクリテ姫カ頭ニサシテツカノ劔ヲヌキテ待給フ程ニ件ノ龍河中ヨリ出来テ八ノ酒船ニ八ノ頭ヲ入テノミ醉ヌネタル所ヲ尊トツカノ劔ニテ此龍ヲ段々ニキリテコロシツ其尾ヨリ八色ノ雲ノ立ケレハ尾ヲサキテ見ニ一ノ劔アリアマノムラ雲ノ劔是也サテ其所ニ家ツクリシテスミ給フ時尊始テ三十一字ノ歌ヲ讀給ヘリヤクモタツイツモヤヘカキツマコメニヤヘカキツクルソノヤヘカキヲ

ヤヘカキトハ神ノイカキ也ツマコメニトハ我妻コメム爲也其八重カキヲトハコノヤヘカキヲ作ト云心也此歌第三番ノ歌也チハヤフル神世ニハ歌ノ文字モ不定ト云者神世ノ歌ハ文字モサタマラヌ也チハヤフルト云ニ四義アリ一ニハ天照太神宇多野ニホリ立タリシ千ノ劔ノハチ一足ニテ破リタリシ故ニ千齒破カミト云也二ニハ天照太神ノトチ給シ天ノ岩戸ニ千ノイハヤアリ其岩ヤトヲ破テ出給シ故ニ千磐破ト云也三ニハ天照太神イハトラ出給フヲ見テ天ノ香久山ノ神達チハヤノ袖ヲフリ双テオトリ舞ヲチハヤフル神ト云也四ニハ三輪ノ明神ハ其名ハカリ有テ社ナカリシ間里人始テ社ヲツクリタリシニ烏鳥アツマリテコノ社ヲクヒヤフリケリ其社ハ茅葉ヲ以テ作りタリシ故ニ茅葉破トイヘリ私勸云々上ノ兩義ハ皆天照太神ニカキリ下ノ兩義ハ諸神ニ互レリ人ノ世トナリテスサノヲノ尊ニハシマルト云者別ノ歌ニハ非スサキノ八雲タツノ歌ニヒ尺シテ云也上ニハ立始テ卅一字ノ歌出来事ヲ云今ハ人皇ノ世ニ三十一字ノ歌出来事ヲ云也ミソ文宇トハ三十也アマリ一文字ハ一字也合卅一字ナリ問ス

サノヲノ尊ハ天照太神ノ御弟ト見タリコノカミト云事如何
答コレハ兄ニハアラス子ノ神ト云義也是ハスサノヲ
ノ尊ノ惡行ヲナタメムタメニ天照太神此ヲ養子トシテ一
年ノ内十月ヲ讓テ日本國ノ諸神ヲシタカヘテ出雲ノ大社
ヘアツメ給也サレハ子ノ神ト申也後ニハスサノヲノ尊ヲ
ハ天照太神ノオトコトシテ地神第二ノ神 正哉吾カツ
ハヤヒニアマヲシホテニノ尊ヲ生リト云リ 問天照
太神ハ男神ニ申ニ此義如何 答天照太神ハ惣名ニテ兩社
アリ内宮ハ男神 外宮ハ女神也サレハ女神方ヨリスサノ
ヲハオトコニスルト申也

カクテソ花ヲメテ鳥ヲウラヤミ霞ヲアハレヒ露ヲカナシフ
心コトハオホクサマノニナリニケルトヲキ所モイテタツ
アシモトヨリハシマリテ年月ヲワタリタカキ山モフモトノ
チリヒチヨリナリテアマ雲タナヒクマテオヒノホルコトク
ニコノ歌モカクノコトクナルヘシ

註曰文集云千里始ニ一步ニ高山起ニ微塵ト云心ナリ 孝經
ニハ塗ト讀リチリヒチハタ、スコシキナル塵ナルヘシ
ナニハツノ歌ハミカトノオホムハシメナリ

オホサハキノミカトノナニハツニテミコトキコエケル
時東宮ヲタカヒニユツリテクラキニツキタマハテミト
セニナリニケレハ王仁トイフ人ノイフカリ思テヨミテ
タテマツリケル歌也コノ花ハ梅ノ花タイフナルヘシ
註曰問ナニハツノ歌ハ御門ノ御始ト云事如何必是ハ王ノ
始トハ不覺 答此ハ必人王ノ始ニハ非ス仁德天皇ノ王ト
イハレ給シ始ト云也其故ハ應神天皇ニ五人ノ王子御座ス
一者高津宮 二長柄宮 三熊柴宮 四難波津宮 五宇治
稚倉宮ナリ 上三人ハオヤニ先テ死給ヌノコリ二人ヲハ
スルニ應神天皇第五ノ宮ニ御位ヲ禪リ給フ彼五宮我弟ト
シテ位ニツクヘキニ非ストテ兄ニ位ヲ辭謝シ給フ兄ハ又
我兄ナレトモユツリヲ得タルニ非ストテ互ニユツリ給テ
三年マテ天下ニ國王ナシサレハ供御モ不定シテ却テ民ノ
歎アリ弟ノ宮我アレハコソ位ニモ付給ハネトテ宇治ノ宮
ニ歸テ被死ニシ給ヘリ爰ニ難波津宮行テ棺ヲタ、キテ哭
給ケレハ蘇生シ給テ云我國ノ政カナフヘカラスサレハ民
ノ歎アルヘシ我民ニカハリテ君ニ位ヲタテマツルトハカ
リ云テ又死給ニケリサテ難波津宮力オヨハス御位ニ即給

ケリ此時王仁ノ大臣御位ノ實否ヲシラム爲ニナニハツノ歌ヲ讀リ其歌ニナニハツト云ハ難波津ノ宮ヲ云ナリサクヤコノ花冬コモリト云者梅ハ冬ヨリサキタレトモ時ノ花ニハ非スサレハ位ニ卽ヘキト云ハ花ハサキタリシニ今コソ位ニ卽給タレハ時ノ花ヨト云ナリ彼王仁ハ日本人ニハ非ス百濟國ノ臣下也日本ニ文道ヲ弘タメニ應神天皇ヨヒ給タル人ナリ日本文道ノ初也此人ハ漢高祖ノ後胤王^{コウ}均カ孫王朗カ子ナリイツモ八重カキヨリ後ハ三十一字ノ歌斷テヨマス又ナニハツノ歌ニ三十一字ノ歌初レリオホサキトハ仁德天皇ノ佳給シ宮ノ名也和泉國ニアリイフカリ思トハ不審也不審ト書テイフカシトヨメリ王仁ハ百濟國ヨリ應神天皇十六年二月ニ來朝ス

アサカ山ノコトハ、ウネメノタハフレヨリヨミテ

カツラキノオホキミヲミチノオクヘツカハシタリケルニ國ツカサ事ヲロソカ也トテマウケナトシタリケレトスサマシカリケレハウネメナリケル女ノカハラケトリテヨメルナリコレニソオホキミノ心トケニケル

註曰淺香山ノコトハ、ト云者ナニハ津ノ後ヨリ歌二十一

代ノ御門マテ斷テヨマス天智天皇イマタ御位ニ卽給ハスシテオハセシ時今ハ位ニ卽給マシキ人ニテ賜^{カフキト}橋姓ニ號ニ太政大臣葛城^{カフキト}此時ミチノ國ノ守ニテ下リ給ケルニ淺香ノ郡ニツキ給ヌ其所ノ土民等マウケワロクシタリトテイカリ給ケレハ近江ノ采女ト云女都ヨリ具テ下リタリケルカ大臣ノ御意ヲナタメ申サムカ爲ニヨメル歌也

アサカ山影サヘミユル山ノ井ノアサクハ人ヲ思フ物カハ

此歌ノ心ハ山ノ井ハ木葉チリ入ル故ニ深モアサクナルナリ其様ニ大臣程ノ人ノ土民ヲシカリ給カトハチシムル也大臣此歌ニハチシメラレテ腹タハスナリニケリ此采女ハ内大臣藤原富土雄^{フシツ}カムスメ也采女ハ内裏ノ女官也采女ニ二ツアリ采女ハ上臈^{ウラハ}ナリ郎女^{ヌナメ}コレハ下臈ナリ此采女後ニハ天智天皇ヲ怨タテマツリテサルサハノ池ニ身ナケテ失ニケリ葛城^{カフキト}後ニ臣下ノ計トシテ位ニ卽タテマツリテ天智天皇ト申也或說ニ聖武天皇ト云リ大ナル誤ナリコノフタウタハウタノチハ、ハノヤウニテソ手ナラフ人ノハシメニモシケル

註曰コノ二歌ハ歌ノ父母ト云者上古ノ八雲タツノ歌ナン
トハ神ノシワサナリ人ノ事トナリテハ此二ノ歌一二番ノ
歌ナレハ此ヲ歌ノ父母トセヨト云也手習人ノ初ト云者此
ヲ歌ノ手本トシテ歌ヲヨメト云義也

ソモノウタノサマムツナリカラノ歌ニモカクソアルヘキ
ソノムクサノヒトツニハソヘウタオホサキノミカトラソ
ヘタテマツレル歌

兩様ノヨミアリ

ナニハツニサクヤコノハナフユコモリ今ハハルヘトサ

クヤコノ花

トイヘルナルヘシ

註曰抑歌ノサマ六也ト云者歌ニ六義アリ是ハ歌ノ性ナリ
カラノ歌トハ詩ヲ云也六義ト云者風賦比興雅頌ナリ 第
一ニ風ト云者ソヘ歌ナリ此ハ思コトラカクシテホカナル
物ニイヒナスナリ風トハ諷ナリ此ハ廣韻ノ説也玉云諷ハ
譬喻也風ハ色鼻見ネトモ草木ニフレテ風トシラルヘ也ソ
ノ如クニ風ノ歌ト云者思事ノコト物ニヨセテ云アラハス
也譬ハ難波津ノ歌ハ必悔ノ花ノ用ナシ仁徳天皇ノ御事也

如此ノ歌ヲ風ノ歌ト云也 毛詩曰一曰風上以風化下々以
風判上主天而謫諫言之者號罪聞足者自戒故曰風正義云風
言賢聖治道之遺化

フタツニハカソヘウタ

サク花ニオモヒツクミノアチキナサ身ニイタツキノイ
ルモシラステ

トイヘルナルヘシコレハタノ事ニイヒテ物ニタトヘナトモ
セヌモノナリコノウタイカニイヘルニカアラムソノ心エカ
タシイツニタノコト歌トイヘルナムコレニハカナフヘキ
註曰カソヘ歌ト云者賦歌也 是ハ一首ニ心アマタル歌也
本玉云ク賦ハ量也量ト云者物ヲアマタハカル義也稱トモ
云稱モアマタカソフル義也經信ハ賦ハツクスト云リサ
レハカスアマタル義也本歌ニサク花ニ思ツクトハ愛花
心也アチキナサトハ遁世也イタツキトハ有多義ニ文選ノ
如クハ煩也文集ニハ勞ノ字ライヘリ文義ハ只事ヲ直ニ陳
テ不譬喻者法賦ト云也サレトモ此歌ノイタツキハ無常也
文記録云 相如野草菴喰^{スル}逢^フ註ニ年序ニ忽亡^{ワイ}無常懷^キ喜ト